

平成19年度京都府中学校学力診断テスト結果概要

府内中学生の基礎学力は全体としてはおおむね定着、活用する力に課題

- 実施日 平成19年10月31日(水)
- 実施対象 府内全中学校(100校)第2学年
国語(9,607人) 数学(9,619人) 英語(9,632人)
- 学力診断テストの目的
学習指導要領に示す目標や内容に照らした学習の実現状況を把握するため、本学力診断テストを実施し、指導上の課題を明らかにして授業改善を推進し、一人一人の生徒に基礎・基本の確実な定着による学力の充実・向上を図る。
- 問題内容等
 - 問題内容は、学習指導要領に示す目標・内容に沿ったものとし、出題範囲は、第1学年及び第2学年1学期までとしている。
 - 個々の生徒の解答状況から学習課題を診断的に分析できる問題とし、国語、英語は音声問題も出題している。
 - 本年度は試行的に、知識・理解等を実生活の様々な場面に活用する力などを問う「活用」に関する問題(問題B)を出題している。
- 結果概要
 - 問題Aについて
 - 国語では、基礎的・基本的な内容についてはおおむね定着が見られるが、「表現の工夫」を問うような応用的・総合的な内容については課題が見られる。
 - 数学では、基礎的・基本的な内容についてはおおむね定着が見られるが、「式の変形」などの応用的・総合的な内容については課題が見られる。
 - 英語では、「会話文全体の聞き取り」など、基礎的・応用的な内容の双方について、いくつかの課題が見られる。

【国語】

基本・応用		正答率	
問題A	基礎・基本問題	80.2	74.7
	応用・総合問題	69.3	

【数学】

基本・応用		正答率	
問題A	基礎・基本問題	74.9	61.1
	応用・総合問題	47.4	

【英語】

基本・応用		正答率	
問題A	基礎・基本問題	63.4	58.2
	応用・総合問題	53.0	

領域		正答率
問題A	話すこと・聞くこと	69.6
	書くこと	70.0
	読むこと	79.9
	言語事項	71.1

領域		正答率
問題A	数と式	67.3
	図形	53.8
問題A	数量関係	56.1

領域		正答率
問題A	聞くこと	54.9
	読むこと	60.0
	書くこと	58.7

(単位 %)

問題Bについて

- 国語では、読み取ったことを基にして、与えられた条件に即して自分の考えを記述する力に課題が見られる。
- 数学では、無答の割合が高く、誤答では、理由か答えのどちらかを間違えている傾向が見られる。
- 英語では、情報を読み取る問題で、読み取る要素が多くなるにつれ、情報の処理の仕方に課題が見られる。

(参考)

正答率(%)の経年比較

	H15	H16	H17	H18	H19
国語	70.8	73.5	81.8	76.1	74.7
数学	62.4	59.4	64.3	64.4	61.1
英語	71.9	54.8	64.0	71.6	58.2